

阿波市立林小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学習意欲の向上と「自ら考える力」「関わる力」「やり抜く力」の育成
- 基礎基本の定着と活用する力の育成

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|--|---|--|--|
| ○基礎的・基本的な知識・技能を身につけようと、漢字や計算練習に繰り返し取り組むことができる児童が多い。 ○記録を残したり、時間設定したりすることで話し合い等が活発にできる。 ●既習内容が定着していない児童がおり、学習内容の定着を図ることが課題である。漢字を文の中で正しく使ったり、計算の意味を理解したりする力が乏しい。 | ①正しく漢字を書いたり使ったり、速く計算したりするなど学習を支える基礎的・基本的な技能を身につけている。 ②語彙を増やし文章を読み取ったり、既習の言葉を使って文章を書いたりでき、音読を読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに読むことができる。 ③学習用具の準備や学習に対する心構えなど基本的な学習スタイルを身につけている。 | ①-1 チャレンジ学習の時間を活用し、漢字ミニテストや計算補充プリント、ICT等を活用して復習する。 ①-2 日記や作文等、生活の中で漢字や、既習のことばを積極的に活用することで既習漢字の定着を図る。 ②-1 読み聞かせや視写、群読などの活動を通して、用例や類似表現を知ったり、国語辞典等を効果的に活用したりして、文章内容を読み取る力をはぐくむ。 ③-1 姿勢体操や掲示物を工夫し、基本的な学習スタイルを身につけるようにする。 | ①-1 チャレンジ学習の時間を活用し、漢字ミニテストや計算補充プリント、ICT等の活用による復習の機会を、今後も継続する。 ①-2 既習漢字を引き続き定着できるように、日記や作文等、生活の中で漢字や、既習のことばを活用している。 ②-1 読み聞かせや視写、群読などの活動を国語辞典等を効果的に活用できるように、今後も継続する。 ③-1 姿勢体操や掲示物を工夫し、基本的な学習スタイルを身につけられるようになってきている。 | ①-1 漢字ミニテストや計算補充プリントを使って、チャレンジ学習の時間を効果的に使うことができた。 ①-2 定期的な日記指導により、語彙力を増やしたり、文法を正しく使えたり、と文章の書き方に慣れることができたが、伸びしろがある状態である。 ②-1 学年に応じて読み聞かせや視写・群読を行うことで書く力や読む力の向上につながった。 ③-1 授業前に姿勢体操を行い、学習スタイルを身につけられるようにしていたが、学年でばらつきがある。 | ・ICTでは、子供に応じた課題を個々に指定することによって知識の定着を図る。 ・児童が書いた作文や日記を掲示したり、互いに読みあつたり推敲したりする時間を設ける。 ・対話をしたり、ポスターにまとめたりすることに加えて、文章にまとめたり、作文を書いたりする機会をもっと増やす。 ・教科横断的な学習ができるような時間を設ける。 ・読書タイム、チャレンジ学習の有効活用を図り、基礎的・基本的な知識及び技能の向上を図る。 ・林学びのスタイル(姿勢体操・姿勢掲示・机の上・授業中の決まり事等)を全校で決めて、学校全体のルールを共通理解していく。 |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|---|--|--|---|
| ○ペアやグループの話し合いでは自分なりの言葉で、考えを伝えることができるようになってきている。 ●目的意識や相手意識をもって、自分の考えを伝えたり書いたりすることに苦手意識をもっている児童が多い。 ●各教科で培った力を生かして、考えをまとめてアウトプットする力が乏しい。 | ①既習の内容を用いて自分の意見や考えを根拠を明らかにして話したり、書いたりできるようにする。 | ①-1 各教科の授業のめあてを明確にし、児童自らが課題解決の方法を学年の発達段階に合わせて身につけ、効果的に活用する。 ①-2 説明の仕方や話形を提示したり考え方を図式化したりして活発な話し合い活動をすすめる、伝え合う場を計画的に設定する。 ①-3 テーマをしぼったり、相手を意識させたりするなど作文指導を充実させる。また自分の思いを書く時間を十分確保し、系統的にすすめる。 | ①-1 各教科の授業のめあてを提示しているが、児童自身が学習の目標をもてるまでには至っていない。 ①-2 ペアワーク等で活動の機会を増やしているため引き続き伝え合う場を設ける。 ①-3 引き続き作文指導や自分の思いを書く時間を確保し、系統的にすすめていく。 | ①-1 各教科の授業のめあてを掲示することで児童に見通しをもって授業を行うことができた。 ①-2 学年に応じて、自分の思いを書く活動やペア・グループ活動を積極的に取り入れることで意見をもったり、伝えたりできる児童が増えた。 ①-3 テーマをしぼったり用語の指定をしたりして、週末に日記指導を行っていきことができたが、学年によって回数や評価にばらつきがある。 | ・児童の疑問や気づきが、授業のめあてになるような授業づくりをしていく。 ・ペア・グループ活動を計画的に取り入れる。 ・作文だけにとどまらず、ICTでのプレゼンや動画等の活用も進めて、幅広い表現力の育成を目指す。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|--|---|---|---|--|
| ○授業にまじめに取り組む、与えられた課題には一生懸命取り組む。 ●自らの課題を見つけて工夫して解決しようとしたり、粘り強く取り組もうとしたりする意欲が乏しい。 | ①学ぶ楽しさや喜びを感じ、自ら、成長していきたいと前向きに学習に取り組むことができる。 ②自主学习等で自分の課題を見つけ、課題に向き合い、解決しようとするところがあると肯定的にとらえることができる。 | ①-1 個別に応じた課題学習や児童主体の授業を効果的に取り入れ、児童を肯定的に評価したり、学級便りで発信したりする。 ①-2 振り返りの時間を設け、自分自身の課題を把握し、次の学習への意欲を高める。 ②-1 異学年交流(ペア読書・学習成果の発表等)を実施し、表現活動の機会を増やすことで、相手意識をもって課題に取り組めるようにする。 ②-2 児童のノートや自主勉強をクラスに掲示したり、「校内自主勉強コンテスト」を実施したりすることで、子どもたちが自信と目標を持って学習に取り組むことができるようにする。 | ①-1 児童の学習定着具合に応じた課題を用意し、スモールステップを図る。学級便りは引き続き子どもたちの学習の様子を発信していく。 ①-2 引き続き振り返りの時間を設け、自分自身の課題を把握できるようにする。 ②-1 学年によって異学年交流を実施しているがばらつきもあるため、表現活動の機会を増やす。 ②-2 3学期に校内自主勉強コンテストを実施し、児童が自身と目標を持って学習に取り組めるようにする。 | ①-1 児童の学習定着具合に応じた課題を用意し、児童を肯定的に評価する機会をとっているが、学習に対して主体的に取り組んでいこうとする態度には課題がみられる。 ①-2 振り返りの時間の確保が十分でなく、自分自身の課題と向き合っていない児童の姿には課題が見られる。 ②-1 異学年交流を通して、表現活動の機会が増え、相手意識や一人一人が活躍できる場が増えた。 ②-2 「校内自主勉強コンテスト」を実施し表彰することで、子どもたちが自信と目標を持って自主学習を頑張る子が増えたが、その期間しか取り組まない子もいた。 | ・自分から発表をしたり、家庭学習や読書を自分から進んで取り組んだりする部分に課題があるため、児童が自信を持って学習に取り組めるように、職員全体で話し合い、組織的に計画を立てていく。またそのような活動を学校内外に発信していく。 ・児童の個に応じた学習に対応できるように学習の流れや時間を分かりやすく掲示したり、ICT等を活用し、個々に学習内容を選択できるようにしたり工夫する。 ・異学年交流を計画的に取り入れ、目的意識・相手意識をもった活動の充実を図る。 |